

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105532		
法人名	有限会社 ハートサプライ		
事業所名	グループホーム 小鳥の森の家		
所在地	岡山市東区南古都734		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370105532&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成22年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護するのではなく一緒に暮らす」をモットーに、介護は、してあげるものでも、させてもらうものでもなく、人が共生していく上での人間としての行為・行動の一つだと考えます。
 利用者と位置付けられる者も職員と位置付けられる者も、人がすべてそうであるように、通じ合える部分で通じ合い、理解し合える部分で理解し合い、お互いを気遣いながら、一日、一日をご機嫌よう暮らしています。
 グループホームへ入所を希望して訪ねて来られた方から「ここは誰が入所者で誰が職員か見分けがつかない」と言っていました。私共にとって、それ以上の評価はありません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者の為にばかりを考えないで、オーナーは経営の事も考えんと…」と、運営推進会議のあるメンバーが心配する程、代表者はこのホームに対する思い入れが強い。数年前に外部評価で訪問した時の印象が、今日更に強まった上に、代表者が発信し続けている思いと誇り(例えば、私たちは命と心を預かるかけがえのない仕事をしている。)が、この何年かの間にホームに浸透しているのを感じた。地域の協力が強い支えもしてくれている。中学生やボランティアの訪問も多い、併設のデイサービスの力も大きい。三度の食事と、職員の心優しい関わりが利用者の心と健康を満たしている。他のホームにないこの雰囲気は、職員が「介護している」ではなく、「寄り添っている」からくるのだろう。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(2日~3日に1回程度) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人を愛すること、ゆるすことをベースに利用者さん個々の人格を受け止め、愛情を持って日々のケアを実践し、家族には日頃の状況を説明し、日常生活を見ていただき安心を得ている。	「己の欲せざる所は人の施す事なかれ」「ダメを言うな。ああせえ、こうせえ言うな」等、ホームの理念としてケアの有り方の指針を職員の目に付くあちこちに掲げている。職員は日々それらを目にして実践しようと努力している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民との運営推進会議を通して抱負やホームの困り事を話し合っ、意見をもらうことにより今後の方針・政策が出来る。	代表者と地域のつながりは広く深い。デイサービスの利用も活発で、地域の人達のこの施設への出入りが頻繁で知名度も高い。地区民生委員のこのホームへの理解・協力・支援の様子も今日しっかり窺う事が出来た。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別に家族への報告はありませんが、家族への近況報告として請求書を送る際に日常又は何かのお出掛け等の写真等で報告しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々より貴重な意見をもらっているが、問題となるものは職員間で話し合い、ホームの向上に努める必要がある。	今日は誕生会に合わせて昼食時に運営推進会議を開催。地域センターの職員・民生委員や家族の代表・職員に私達も参加して意見交換をした。家族代表から意見や要望も出て、有意義な会となった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	私共の仕事は介護保険の制度の中での事業です。岡山市役所は保健者であり、地域密着事業としての指定機関であり、介護保険課はその窓口で連携は必至のものです。介護のいい形を構築していくパートナーであると思います。	地域センターや介護保険関係で、質問に答えてもらったり、指導助言をしてもらう等、良い協力関係を築いている。運営推進会議にも参加してもらっている。以前の山崩れの災害時も応援してくれた。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員がしてはいけないと周知徹底している。玄関の施錠も行わず、外に出たがる利用者さんの行動に常に目を配り、注意して危険防止に努めている。	ホームを一步外に出ると車の往来がかなり見られる状況ではあるが、昼間は玄関の鍵をせず自由に出入りできる。身体拘束の対象となるようなケアは一切ないが、虐待や身体拘束関連の学習をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について常に学ぶ機会を持ち、利用者さんの人権尊重と介護の実践に各自が誇りを持てるようなケアをしていくことが大切であると考えてケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターよりの講演とか、図書館の利用で学ぶ機会を持っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約重要事項は代表者とケアマネで行っているが、不安なことや疑問点を尋ね、それらを説明し、理解と納得を得られている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情書きのノートを用意し、意見をもらうようにしているが出てこない。利用者さんの家族内満足度調査も必要かと考えている。	運営推進会議には家族の代表が出席して、家族の立場からの意見や要望等発信し、ホームの職員とよく意見交換している。かって「家族会」を行事の時に実施している。行事等への参加もかなりあり親睦をはかっている。	家族と代表者も、ホームの職員も、今後何らかの形で今以上に家族の希望や意向を聞きたいと思っているので、「今が良いチャンス」と考えて、例えば行事や運営推進会議と組み合わせて「家族会」を立ち上げしてみたい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に介護目標を書いてもらうことにより、職員の目指す介護が今から利用者にも反映されると思うので実行したい。	職員の勤務形態により、ミーティングに「全員参加」は中々難しい状況であるが、何か事のあった時はデイサービスの職員に2～3時間頼んで話し合っている。日常的には代表者・管理者等が個々によくコミュニケーションを取るようにしている。	職員全員が参加した会議が難しい状況なので、職員連絡帳(申し送り)・議事録等へ全職員が意見や感想を記録できるよう、既存のノートの活用を膨らます工夫をしてみたい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のトラブルは一度もありません。従って退職する人はいません。私たちの仕事の基本は受容を大切にしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	私達は命と心を預かる仕事をしています。そう考える時、私達は、もちろん健康でなければなりません。心を支えるには力持ち、心の純度と強さが求められます。全員、自己研鑽に努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流を持ち勉強会をしたり、現状の問題点とかを話し合い、サービスの質の向上をさせていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の入所に対する気持ちの把握と同時に問題点を把握し整理していくその中で、本人の意向などを聞き関係づくりをしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、困っていることは何かをしっかりとつかみ支援している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援は何か、本人・家族が言った言葉からアセスメントしていく。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんとのコミュニケーションを早くに取れるよう明るく笑顔で接していくよう心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームのケアの方針や方法等を共通理解をしていただく為の話し合いを行ったり、コミュニケーション作りにも努力している。その中で利用者さんの気持ちを尊重していく。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの人生・生活歴を把握し支援に努めている。	ホームは入りやすい雰囲気、家族・親族・友人・知人が来てくれるよう支援している。また、家族の関係も大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性や生活歴を把握し、リビングルームの居場所の確認を行い、場合によっては居場所の変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	止む無く入院により対処された利用者さんに面会を行い、家族より情報を得て関係維持している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	清潔好きな利用者さんの意向を受け入れ希望を通してしている。	独りひとりが今迄の暮らしやその人らしさを失う事のないよう、あらゆる困難にも対処する姿勢がここにはあると言う話を民生委員からも聞いた。日常的な些細な意向や訴えにもしっかりと職員は耳を傾けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴の把握、サービス利用等の経過等の把握に努めている。その中からその人の生きがい等を見つけるよう努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録類の充実を図り、利用者さんからの訴えや症状等で職員が異常等にも気付いて対応できている。また、医療への連携も素早く出来ている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	簡単明瞭な介護計画の立案を立て、日々のモニタリングと介護計画の見直しを行うようにしていきたい。	利用者の状態が変わった時は随時に、変更の無い時は原則として半年毎にケアプランを見直ししている。その際には本人・家族の意向はもちろん。担当者・ケアマネを始めとして多くの関係者の意見を反映させている。	入居時のフェイスシート等は詳しく綿密に記載されているので、入居後の日々の暮らしの状況やモニタリングの流れを大きく掴めるようなシートを作成しておけば、役立つこともあるのではないかと。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきを個別記録に記入することが大体できている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じたニーズに対応していき、ケアを明確化していく必要があり実践したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームを支えている地域資源として ・介護保険の申請 福祉事務所 ・休日夜間の利用時 休日夜間診療所 ・特別養護ネットワーク相談等の活用		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは往診時、日頃の利用者さんの状況報告を行っている。又、専門外の疾患の折には、個人が日頃かかっているかかりつけ医にコンタクトを取り、受診し家族には事前にTELしている。	週1や2週1と、定期的に往診してもらえる協力医の存在はありがたい。緊急時や夜間も快く対応してくれるので安心と職員は話す。昨秋より勤務している看護師の日常的な職員への指示や医師との医療連携も順調に進んでいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換ノート、介護日誌を通して伝達があったり、直に報告を受けることにより対処できている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後病院を訪問し、その後の状況を聞き、治療、診断について記録している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者さんには早くに医師に連絡を行い、指示のケアを行えている。終末期のあり方については早くから家族と話し合いを重ね、医師の方針、ホームの方針に合わせて説明を行い、考えていく必要がある。	ターミナルケアはすでに一人経験しているし、今日も重度化している人へのケアの様子を窺う事が出来た。今後もホームとしては状況によっては可能な限り対応していきたいと言う。関係の家族とも十分な話し合いを重ね、職員は気持ちを一つにして取り組もうとしている。	終末期のあり方について、今迄の経験を踏まえてホームの方針を代表者・職員・協力医師等とよく話し合い、マニュアルを制作したり、家族の「同意書」も考えておきたい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法、観察ポイント等のマニュアルを作成し実施しているが、応急手当等についてのマニュアル作成も必要であり検討中である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、誰もがすぐに活用できるようにしている。防犯対策、火災通報のためセコムを利用している。	火災・地震・停電・水害等の災害を想定してマニュアルを作成。年1回利用者も参加して避難訓練を実施している。この職員でもある町内会長は、災害時の地域との協力体制を考える時必要なことは「日頃からの互いの交流。しっかりここに皆が出入りしてもらおう事」と言い、実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、以前の職業の時の呼び方をしている(先生とか)。名前もさんときちんと呼ぶ等して守られている。	夫婦でここに入居し仲良く暮らしている奥さんからここでの暮らしの印象を色々聞かせてもらったが、それぞれの人の生活歴や個性が尊重されている事がよくわかった。また、職員の声掛けや寄り添いも皆やさしく、しっかりした対応が感じられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の利用者さんの生活の中から気付きを養ったり、コミュニケーションをしっかり取り、自己決定の支援を行うよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、希望を聞き入れながら支援出来ている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着ている服をほめてあげたりする事により服への関心が見られ、お洒落が出来ている。散髪も定期的に行い常にさっぱりしている。ひげそり、爪切り、頭髪の手入れも行えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は高齢の人が多く、その事を考慮した献立、調理の工夫ができており、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	初めてここを訪問した時から、「このホームの売りの一つは美味しい手作り料理」と思っていたが、今日も相変わらずで飛び切りのご馳走をいただいた。毎日の献立表を見ても三度三度品数多く栄養にも配慮。個別の特別対応もしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量を記録し、その折りの状況に応じ(便秘、発熱等)利用者に飲水を促したり、介護者にも注意するよう伝えている。それに合わせて必要時バイタル測定も行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けとケアの介助は実践出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんの排泄状況、支援方法が分かるように介護者情報と介護計画に記入、時間毎にトイレ誘導を行い、排泄への自立支援を行っている。	ぎりぎりまでおむつの使用をしないよう、紙パンツや尿取りパットを個々に工夫して使用している。パットをトイレに流す人もいてそれとなく付いて行って見守る等、可能な限り排泄面でも自立出来るよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導を行い排泄を促したりしている。食事の献立も野菜を多く取り入れ、便秘予防の工夫がなされている。排泄ノートに排便の有無を記録して処置を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表を利用者さんの希望を入れながら行っている。浴槽に入れない人には足浴をしながら温かくしている。	少なくとも週2回は入浴している。入浴拒否の事もあったり、重度化により浴槽には入れない人も居るが、無理強いせず、タイミングを変えたり、シャワー浴・足浴等、柔軟に対応するようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、騒音等の環境調整をする事と昼間の午睡を調整して安眠できるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、効能を誰でも分かるように明記しており、服薬カレンダーに入っている薬を配薬箱に入れる時も確認するようにしている。又、確実に介護者が服薬させるよう注意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんの基本情報を基に把握し、その人の持ち味を出せるように援助する。歌、塗り絵、食後のお膳拭き等、楽しみごとや役割を行ってもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者さんの状況に応じた外出支援は出来ている。家族の面会時の外出、ホームよりの外出、菊花展、公園散歩等。	行事としての外出や地域交流の他に、気候の良い時は散歩をしている。最近は足腰が弱くなって近くの小鳥の森へも集団で散歩が難しくなっているが、今後は家族にも今以上に協力をしてもらって個別に出掛けたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来ない人が殆んどであり、お金を所持していないので支援は出来ていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特にはない		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングルームには四季折々の花を生けて季節感を採り入れている。共用の空間が不快や混乱を招くような刺激もないよう配慮工夫をしている。	気の合う人同士が座れる位置に配慮した椅子・ソファが明るいいリビングの真中に有り生活の中心となっているが、廊下でつながっているデイサービス(カラオケルーム等)や、庭の菜園や日向ぼっこの猫達にも癒されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置、足の岩盤浴を設置し、リラックスしながら話しをしたり思い思いに過ごせている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物を置き、本人んが居心地良く過ごせている。部屋でのポータブルトイレ使用については排泄後は直ぐに始末をし、臭い等の不快を防止出来ている。	備え付けの洋服ダンス等の他、ソファ・テレビ・椅子・仏壇等の家具や思い思いの写真やマスコット・花・表彰状等を飾って自分らしい部屋にしているので、居室を一渡り見回すとその住人を少し理解する事が出来るようだ。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入口に目印になるものを飾り自分の部屋を分かるように工夫している。廊下等には障害物になるものは極力置かないよう常に気をつけている。		